

町ぐるみん白岡「だより」

町ぐるみんの子育てをめざす

子どもと読書

前号に続き、子どもと読書について考えてみました。

今回は、読書について、子どもたち自身がどのように考えているのか、市内の中学生に「読書活動」にまつわる作文を書いていただきました。

読書に関する中学生自身の体験や考え方の中に、私たちが読書を通して子どもたちと関わる際のヒントが隠されているような気がします。



学校図書館の様子（篠津中学校）

読むほどに深みを増す一冊の本

篠津中学校二年 安野 遙

私が紹介したい一冊の本は「星に願いを、月に祈りを」です。この本の主人公は章ごとに変わるのですが、読んでいくうちにそのつながりに気づかされます。始まりは、小学生の頃。話が進むにつれて登場する人物たちは成長していきます、大人になるまでが描かれています。この本の一つの魅力は彼らの大人になっていくことで変わっていく心です。興味を持ったことをただ無心に追いかけていた子供の心。やりたいことがあっても相手を想い悩みながら簡単には踏み切れない大人の心。彼らの心に注目して読んでみてください。そして、もう一つの魅力は、話の中に隠されたいくつかの謎です。答えは、はっきりとは書かれていませんが、全ての物語を読んだ人にはきっと分かるはず。そして、それを知った時、心が温かくなります。大人と大人になろうとしている人に読んでほしい一冊です。

絵本を大切にしたい

青義中学校三年 山口 友梨乃

私にとっての大切な本は、「桃太郎」だ。桃から生まれた桃太郎が仲間を率いて鬼退治に行くというこの物語は、きっと誰もが知っている一冊であり、日本昔話の中で最も有名なお話の一つだろう。私は幼い頃この本を、父や母、祖父や祖母など身近な大人に何度も何度も読んでもらった記憶がある。もちろん、桃太郎以外にも様々な本を読んでもらった。お気に入りだった本は、今でも鮮明に思い出出すことができる。私は特に、絵が

かわいい本が好きだった。それらの本は何度読んでもあきることなく、幼い私にいつも変わらない喜びを約束してくれた。だから私は、読み聞かせをしてもらう時間が大好きだった。今の私が本が好きである理由は、あの頃読んだ本達はその面白さを教えてくれたからに違いない。

私は今度、我が家の本棚の奥にしまわれている絵本達をもう一度読み返してみたい。アルバムをめくる時のような懐かしさの中に、どんな発見をもたらしてくれるのか楽しみだ。

節分行事の1コマ



白岡市母子愛育会

「こんにちは」声かけが基本の母子愛育会です。現在会員は約240名、今年の10月には、創設80周年を迎えます。2月1日には、恩賜財団母子愛育会総裁の秋篠宮妃紀子殿下のご視察を頂くことができました。

私たちの主な活動には、お母さんの仲間づくりとして行う七夕・お月見・節分などの季節の行事や運動会、白岡まつりでの赤ちゃんの手形とりなどがあります。

また、地域では親子のふれあいの大切さを学ぶ機会として、ミニ運動会や工作教室、クリスマス会等を行っているほか、料理教室や救急法の普及にも力を入れています。

会員は、「無理なく、楽しく」をモットーに地域に根ざした活動を行っています。



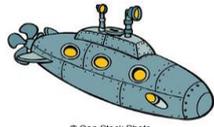
「町ぐるみん白岡」は、文部科学省登録の家庭教育支援チームです。家庭・地域・学校の連携を進める「懸け橋」となり、子育て活動団体同士の接着剤・潤滑油となることを目指しています。

海底二万マイル

南中学校二年 寺内 達也

僕は、小学生の頃、この本を読み、今でもとても良かったと思っています。

なぜ、そう思ったかというところ、この本を読むと、夢を持つことができるからです。他の作品にも人に夢を与えるものはあるでしょう。しかし、この本には世界の広さや、その世界の人達の思い。そして何よりも世界の楽しさを知ることが出来ます。例えば僕は、ネモ艦長の思いが伝わる言葉の一つで、「地球上に、苦しんでいる人々、圧迫されている民族、救いをもとめたり復しゅうを待っている人々がいる。」という所に心を打たれました。ネモ艦長は人々を助けるという夢を、物資を届けるという形で叶えようとしているのです。



© Can Stock Photo

気に入っている一冊

白岡中学校一年 江口 裕希

僕が気に入っている一冊は「掟上今日子の備忘録」です。眠ると記憶がリセットされてしまう主人公の忘却探偵・掟上今日

子が、身に覚えのない事件に巻き込まれてしまう隠館厄介を窮地から救い、様々な事件を解決するという物語です。

彼女は、集めた証拠や組み立てた推論も一日で忘れてしまうため、どんな難事件でも、一日で解決しなければなりません。しかし、犯人に気絶させられたり、眠らされたりしても、自分の体にメモを書き残し、周りの人に助けてもらうことで、事件を解決していきます。

この本は、短編のストーリーがいくつもあり、事件の真相が明らかになると、意外な展開や面白さが味わえます。



注

注1『星に願いを、月に祈りを』中村 航

注2『海底二万マイル』ジュール・ベルヌ

注3『掟上今日子の備忘録』西尾 維新



読書に親しみ、本から多くのことを吸収したい、読書の楽しさを共有したい、と願っている皆さんの言葉から「本の持つ力」を感じました。寄稿いただいた皆さんに感謝申し上げます。お祈りいたします。

子育てカフェ

子育て中のお母さんの悩みや疑問にお答えします。今回は、学校栄養士の皆さんにお答えいただきました。

Q 小学校2年生の長男の偏食が気になります。

A 離乳期以降、子どもはさまざまに味を体験することによって、徐々に酸っぱい物や苦い物も食べられるようになります。

ところが、調理をする人の好き嫌いで食卓に出る機会の少ない食品は、子どもにとっても苦手な食べ物になりがち。親自身が食事と健康とのかわりを十分理解して、バランスのとれた食事作りや、好き嫌いのない食生活に気を付けたいですね。

嫌いな食品があっても代わりに栄養をとれる食品があれば（例えば魚が嫌いであっても肉や卵、大豆製品などが食べられれば）問題はないわけですが、だからといって偏食を放置してもよいという意味ではありません。偏食がひどく特定の食品しか食べない状態では、成長に必要な栄養素が不足しやすくなります。また、子どもの噛む力は16歳くらいでほぼ大人並みになるといわれて

ています。野菜や肉など、繊維の多いものは、子どもの噛む力では噛み切れないことも多く、好き嫌いの原因となることもあります。子どもの苦手な食べ物は、細かく切ったり、柔らかくゆでたりするなど食べやすい調理を心がけることも必要です。

家族で取り組む方法として、例えば、家庭菜園で一緒に作った野菜を料理に使うとか、時には雰囲気を変えるために野外での食事などというのも効果的です。親子で買い物に行ったときに、食品の栄養について話すのもよい方法です。食事作りをお手伝いしてもらって、家族に美味しいと評価されるなど、調理や食事は楽しいものだという体験をすることも好き嫌いをなくすうえで大きなポイントといえます。お手伝いから始めて一石二鳥かもしれません。

また、好き嫌いを叱らないようにしましょう。「嫌い」な気持ちも受け止めながら、工夫して上手に導くことも大切。気分が変わったり、年とともに食べるようになってきたりすることもあるのです。根気強く続けてみてください。

